



ほふく  
①匍匐前進の訓練

この企画展では、護郷隊の少年たちがどんな訓練をしていたのか(①)、山中での戦闘はどのようなものだったのか(②)を想像できるように工夫しました。護郷隊のことはまだあまり知られておらず、写真が一枚も無いことから、体験をどうイラストにするのか大変悩

みました。たとえば②のイラストは、「自分と5mくらい離れて構えていた兵隊の前に迫撃砲が落ちてきて、吹っ飛ばされた。砂もかぶるんです」という証言をもとにしました。展示用のイラストは証言や資料についてイメージしやすく、わかりやすくするため、線や色の塗り方、服装・表情などもかなり簡略化して漫画的な表現で描いています。

## 戦時体験をどう伝えるか —慰霊の日企画展での イラスト作成の試み—

### 2018年慰霊の日企画展

#### 「戦場になった恩納岳 少年

#### ゲリラ兵 第二護郷隊の戦争」



②目の前に迫撃砲が落ちてきたという証言

イラストを展示するのはこの企画展が初めての試みでした。「護郷隊」というこれまであまり知られていなかったテーマだったこともあり、村内外の多くの方に見ていただくことができました。

### 2019年「恩納村に近づく戦争の足音」

この展示では、当時の一般の人々の生活の様子を描きました。金属の供出や農作物の増産、出征の様子(③)、恩納村内でも証言の多い伊江島飛行場建設の様子(④)などです。中でも出征の様子は、見送られる側の家族の表情をどう描くかが一番難しく、悩んだところでした。